



No.53 2022.5

土木史フォーラム

Newsletter of Committee on Historical in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

～ 目次 ～

フォーラム	「土木の絵本」に導かれて	理工図書株式会社顧問 緒方 英樹	……1
地域ニュース	北海道選奨土木遺産カードのご紹介	土木学会北海道支部 選奨土木遺産選考委員 石川成昭	……4
学会ニュース	「第42回土木史研究発表会」について		……8

— フォーラム —

— 「土木の絵本」に導かれて —

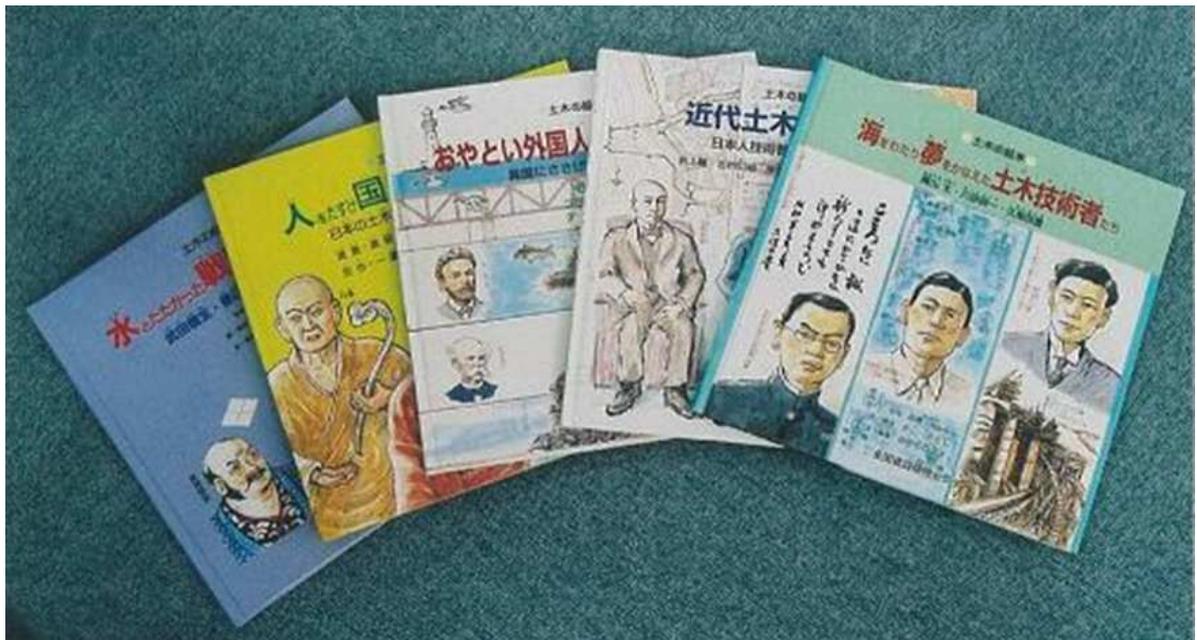
理工図書株式会社顧問 緒方 英樹

「土木の絵本シリーズ」全5巻(発行(一財)全国建設研修センター)は、「国づくりの歴史」や「土木の仕事」を広く一般に理解していただくため、次代を担う子供たちのために小学校

や図書館等で活用されました。現在は全巻在庫切れですが、PDFデータで閲覧・活用できます。

(<https://www.jctc.jp/about/dobokuvideo>)

この絵本の監修は、故・高橋裕先生です。



土木の絵本シリーズ全5巻 画・かこさとし 文・緒方英樹 監修・高橋裕
(1巻1997,2～5巻2002,3)

■高橋裕先生と青山士のこと

1巻で取り上げたのが武田信玄、豊臣秀吉、加藤清正。2巻が道登、道昭、行基、良弁、重源、空海、空也、一遍、忍性、叡尊、禅海、鞭牛、3巻がモレル、ブラントン、デ・レーケ、ケプロン、4巻が井上勝、古市公威、沖野忠雄、田辺朔郎、広井勇でした。

4巻まで発刊した時、当時、建設省建設大学校で研修企画官として勤務されていた松浦茂樹さんのところへ、恐るおそる絵本を持参しました。いつもの仏頂面で絵本のページを捲っておられた松浦さん、眼鏡の下からじろっと私を睨むと、ふっと笑って「いいね。これ、いいよ」と仰っていただいたことは僥倖でした。

そして、5巻目で廣井山脈と呼ばれる廣井の薫陶を受けた教え子たちの中からだれを選ぶか。高橋先生が最初に挙げられた人物は、もちろん、先生と同郷の青山士でした。

高橋先生は東大の助教授時代、34歳の時、青山さんの亡くなる2年前に静岡県磐田市のご自宅に2回お伺いして直接話を伺ったことがあると言われました。1回目、青山さんご本人はパナマ運河工事からなぜ帰国したのか理由を黙して仰らなかつたが、青山さんにお会いできたことは、私の若い時代における大変貴重な機会となったとお聞きしました。

2度目に訪問時、青山さんが最初に言われたのは、「技術の発達はまだことにすばらしいが、人間形成の面でははたしてこれでよいのだろうか」ということだったということです。

大河津分水路補修工事修復記念碑の表面に「萬象二天意ヲ覚ル者ノハ幸ナリ」、裏面に「人類ノ爲メ國ノ爲メ」という言葉が日本語とエスペラント語で刻んであります。高橋先生は学生の時にこの碑を仰ぎ見て大きな感動を受けたということです。高橋先生は青山さんとこの碑についてお話を交わされたそうです。日本語とエスペラント語で刻まれた文はもちろん青山さんによるものです。その国際的感覚と格調あるヒューマンイズムの源泉は、青山さんが若い時代に過ごした異郷で育まれたものだと言った高橋先生は感じたと言っていました。

さらに高橋先生は、浅学の私にこんなことも仰いました。

「土木史では、いつどこで誰が何をしたということも大事だけれども、それがどういう時代で、どういう時代の精神にそっていたかを知って考えることがより大事でしょうね」と。

■高橋先生、田村喜子さんと八田與一のこと

高橋先生が、青山士の次に挙げられた人物は、八田與一でした。私は、その土木技術者の名前も業績も知りませんでした。すると先生から、田村喜子さんと『台湾を愛した日本人』（平成2年度土木学会著作賞）の古川勝三さんに会うことを薦めていただきました。

当時、田村さんは『京都インクライン物語』で第1回土木学会著作賞を受賞されていて、台湾の台南で催されていた八田與一シンポジウムに来賓として出席されていたことを知りました。以来、高橋先生と田村さん、古川さんとは何度か酒席を共にさせていただき、それこそ多くの薫陶を受けました。

「土木の絵本」を縁に、田村さんとは「明日をつくった男—田辺朔郎と琵琶湖疏水—」（原作「京都インクライン物語」、制作：虫プロダクション）の企画で関わらせていただき、土木学会第21回映画コンクール最優秀賞を受賞しました。映画製作段階で、田村さんが何度も仰っていたのは、「私の永遠の恋人は田辺朔郎なんだから、美男子に描いてね」でした。



「明日をつくった男—田辺朔郎と琵琶湖疏水—」
（虫プロダクション）

そして、高橋先生、田村さんに発起人をお願いして制作したのが、長編アニメーション映画「パッテンライ！南の島の水ものがたり」（2008.11完成。土木学会第23回映画コンクー

ル最優秀賞)でした。絵本で出会った八田さんのことを一般の人に知ってほしいと願って企画しました。私が八田與一技師を映画の主人公に選んだ理由は、その業績や技術だけでなく、生き方そのものがダイナミックでドラマチックであったこと、そして、民族や国境を超越した考え方を持って、土木技術者の本懐とは何かを後世に示してくれたこと。地域の抱えていた問題に対して自分を含む人と地域の問題として受けとめ、地域の人と共に解決したことにありました。

この作品は、事実を基に物語を構築したフィクションですが、その基底に置いた物語のテーマは、「水を飲むときはその井戸を造ってくれた人のことを忘れないで感謝する」という台湾に伝わる飲水思源(いんすいしげん)という考え方にありました。

「土木の絵本」第5巻の調査過程で知った八田與一による土木の卓越さとは、民衆およそ60万人のために、命の水16,000kmを給・排水した土木事業が多くの人のライフスタイルを変えたことでした。

そして、それら網の目のように張り巡らされた水路は、嘉南や雲林の農田水利会によって管理され、現在も農地と地域民の生活を支え続けている。そのことを地域の人々は「飲水思源」の感謝を語り継いでいることも伝えたいことの一つでした。



「パッテンライ! 南の島の水ものがたり」より

平成27年、高橋先生は、「流域管理の革新的概念の創出と水災害軽減への貢献」から「Japan Prize」(日本国際賞)を、同30年には「第10回とうきゅう環境財団 社会貢献学術賞」を受賞されました。それらの栄誉は土木界にとってもきわめて意義深いことでありました。

また、田村喜子さんの『土木のこころ』は復

刻されて、新たな脚光を浴びています。松浦茂樹さんには『戦前の国土整備政策』、『国土づくりの礎～川が語る日本の歴史～』をはじめ日本という風土に根ざした個性ある地域整備とは何かを改めて突きつけられている思いです。

この場を借りまして、僭越ながら深く哀悼の意を表します。



日本国際賞受賞記念講演会で高橋裕氏(土木学会)

(2022年3月受理)

— 北海道選奨土木遺産カードのご紹介 —

土木学会北海道支部 選奨土木遺産選考委員 石川成昭

1. 製作の経緯

北海道選奨土木遺産カードは、土木の世界に触れる機会の少ない一般者向けに、北海道の選奨土木遺産を紹介することを目的として、2014（平成26）年の土木学会100周年を記念して土木学会北海道支部で製作した。

きっかけは、学会100周年記念の企画募集に呼応して、広報活動の媒体であるシビルネット北海道（Facebookを活用）の普及を図ろう、そのネタには土木遺産がいいのではないかと、当時の土木学会北海道支部の有村幹事長（現室蘭工業大学）が企画して、道支部選奨土木遺産選考委員会の原口幹事長に持ちかけたことに始まった。

その当時、シビルネット北海道では、ネット上の繋がりだけではない実態的な活動として「土木的な何か」を模索していた。一方、選奨土木遺産選考委員会では、既に30件余りある選奨土木遺産について、可能な限り現地に足を運び、実物を見てほしい、との想いを抱いており、その両者がマッチした形だった。先輩格のダムカード等を参考として、北海道の美しい景色に溶け込む土木遺産の写真と情報を紹介しようとなった。

2. カードの製作

予算と製作枚数については、学会本部の100周年事業で予算を得たとはいえ、北海道の選奨土木遺産の件数は、製作を検討した2013（平成25年）で32件あった。印刷費の単価は、枚数が増えれば下がるものの、1件当たり数千枚を刷る余裕はない。さらに、カードの見栄えを左右する写真の確保も課題となった。可能な限り目新しい写真とすべく、管理者への依頼および選考委員の手持ちや撮影により用意したが、半数近くは撮影を外注せざるを得なかった。結果として、カードに相応しく美しい写真を得る

ことができた。そうして、初回は1件当たり1,000枚を印刷することとなった。

記載内容は、奇をてらわずにダムカードと足並みを揃え、片面に写真、その裏に遺産データを示すこととした。写真面には名称、番号（選奨順）、記号（施設の種別・色を設定）を示し、

＜施設種別の記号および製作カード一覧＞

B: 橋梁	Rd: 道路	P: 発電
D: ダム	Rv: 河川	W: 水道
H: 港湾	Rw: 鉄道	O: その他

No.	種別	名称
1	H	小樽港北防波堤
2	W D	函館市の水道施設群
3	B	旭橋
4	Rv	生振捷水路
5	H	稚内港北防波堤ドーム
6	Rw	狩勝峠鉄道施設群
7	H	函館港改良施設群
8	Rv	十勝川千代田堰堤
9	P D	雨竜発電所
10	Rw	宗谷線剣淵・士別間鉄道防雪林
11	O	チキウ岬灯台
12	Rd	札幌本道赤松並木
13	B	張碓橋
14	H	網走港帽子岩ケーソンドック
15	P D	千歳川の王子製紙水力発電施設群
16	W	札幌市水道記念館(旧藻岩浄水場)
17	P	藻岩発電所取水堰
18	W	奥沢水源地水道施設
19	P	定山溪発電所施設
20	D	聖台ダム
21	B	第三雨竜川橋梁
22	Rw	狩勝信号場跡
23	H	小樽港斜路式ケーソン製作ヤード
24	B	創成橋
25	B	舞鶴橋
26	H	留萌港南防波堤
27	Rd	道庁正門前木塊舗装・銀杏並木
28	P	虻田発電所
29	Rv	夕張川新水路
30	B	岡山橋
31	W	覆蓋付緩速ろ過池(春光台配水場)
32	O	旧北炭幾春別炭鉱・錦坑の炭鉱施設群
33	Rv	新釧路川
34	H	松前港福山波止場
35	Rv	茨戸川の岡崎式単床ブロック護岸
36	Rw	旧函館本線神居古潭トンネル群
37	Rw	旧網走線開業時の鉄道施設群
38	O	開拓使三角測量基線-勇払基線、函館助基線
39	P	滝の上発電所施設群
40	B	網走橋
41	B	山線鉄橋
42	H	苫小牧港大規模掘込港湾施設

遺産データ面には左側に諸元（完成年、所在地、材料・形式、規模）、右側に施設概要（120文字程度）、下段には道支部 HP 等の PR（QRコード等）を示した。

遺産データの内容作成は、既往の推薦理由書等を参考として、各選考委員が3件程度を分担した。

3. 配付場所、配付方法

配付場所の選定は、手間のかかる作業であった。配付場所には、手渡しおよび残数等の管理が可能であることを必須とし、可能な限り遺産との関係があり、同じ地域(市町村)にあることや土日配付が可能であることが望まれた。一方、選奨土木遺産は、郊外など不便な場所も多く、施設の種別も多様である。結果、配付の要件を満たせる場所は少なかった。配付場所の立寄り易さでは、道の駅が好適なのだが、多数の来客数に対して、枚数不足が懸念された。なお、道の駅での配付は、予想した通り早期に配付を終了した。

個別に配付場所を調整した結果、土日休みではあるものの、施設管理者の役所や事務所等が主な配付場所となった。また、土日開所の公共施設や観光案内所、民間施設にもご協力を頂くこととなった。そうして配付方法を含む依頼文書を送付し、後日カードを送付した。また、残数が50枚以下となった際には、道支部に連絡を頂き、土木遺産カードのHPに反映することとした。

令和元年度末までに配付場所が決定していた38件に対する配付場所の数は、1件で複数の配付場所もあるため延べ60箇所（配付終了を含む）あり、うち23件は土日配付が可能となったが、15件は平日配付のみとなった。

<カード配付場所の種類と配付可能曜日>

配付場所の種類	配付可能日	箇所数
各種役所、事務所等	平日のみ	34
公共施設:博物館、図書館等	土日祝可	9
観光案内所、駅(うち道の駅)	土日祝可	12(4)
民間の集客施設、事務所等	土日祝可	5
計		60

配付方法については、限りある枚数ゆえに遺産に出向いた方を対象にお渡ししたいのだが、確認が困難であったり、配付場所への負担増にもなるため、申し出のあった方へ手渡しすることとした。

4. 配付状況

第1弾は、2014（平成26）年の秋までに作成を完了させ、11月の土木の日行事にてお披露目を行い、翌年度から一般への配付を開始した。広報にはチラシを作成した程度であったが、道支部のHPにて窓口情報を一元化し、ここを見ればすべての情報が入るようにした。また、新たな配付場所が開設される毎に、シビルネット北海道で告知も行った。

1件当たりの配付数は1,000枚と多くないものの、配付場所によっては団体の見学者にも配付する必要があり、数か月で配付を完了した施設もあった。コツコツ集めようとした方にとって、短期間での配付終了は看過できない状況だったと思われ、事務局には追加補充の問い合わせや苦情も寄せられた。常時補充可能であれば早期解決となるのだが、当初製作後2年は新たに選奨された分を製作する余裕しかなかった。

<選奨土木遺産カードの一例>

苫小牧港大規模掘込港湾施設 北海道選奨土木遺産 42

遺産DATA

(完成年) 掘込水路供用開始:1963(昭和38)年
西防波堤完成:1964(昭和39)年
東防波堤完成:1967(昭和42)年
(所在地) 苫小牧市
(材料・形式) 掘込水路:掘込んだ水域
西防波堤:基礎捨石+重力式ケーソン等
東防波堤:基礎捨石+重力式ケーソン等
(規模) 掘込水路:面積約400万㎡
西防波堤:延長約870m(現存防波堤130m)
東防波堤:延長約1,494m

苫小牧港大規模掘込港湾施設は、漂砂対策に基づく防波堤と長大な水路からなる世界初の掘込式港湾を砂浜と原野に築き、新たな臨海工業地帯の開発を実現した施設である。我が国における大規模掘込港湾の嚆矢である。

北海道の選奨土木遺産をもっと知ろう! 土木学会北海道支部HP
<http://www.jsce.jp/hokkaido/> 土木遺産 北海道

土木学会 Facebookページ シビルネット北海道
<https://www.facebook.com/civilnet.hk>

カードを受け取る側の様子も様々である。私も週末に活動している岩見沢駅前の炭鉱関連のNPO事務所では、5キロ離れた岡山橋のカードを配付していた。多くは「土木遺産カードを下さい」となるが中には現地の写真を示しながら所望される方もおられた。製作側の意図を汲んで頂いているようで、うれしい限りである。

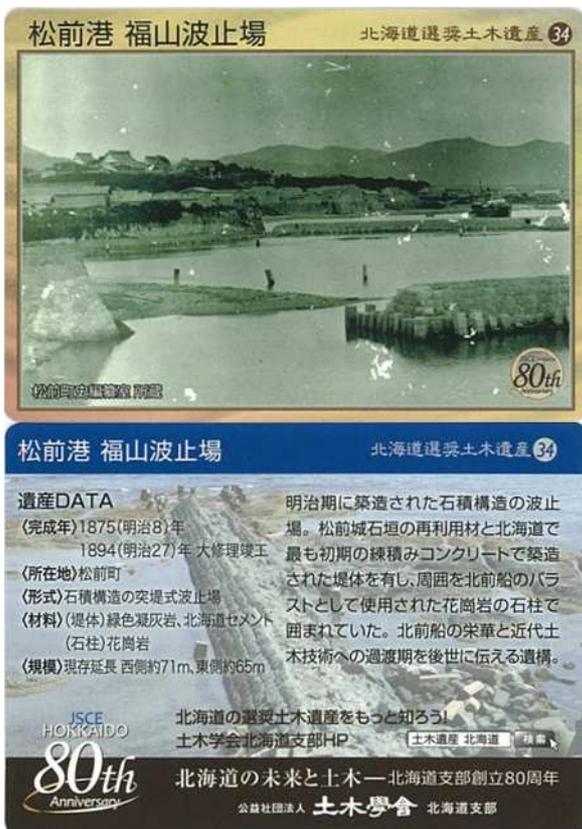
また、他のカードも含めたカードホルダーを携えている方も何度も見かけ、カード人気の底力を知らされた。一方、何度も同じ方が受け取りに来た状況もあったとのことで、このようなカードの宿命とはいえ、ネットオークションにも出品されている状況に少々複雑な気持ちにもなった。

5. 追加・補充等の対応

当初の配付から3年後の2017(平成29)年、配付場所の多くで品切れとなったことに加え、土木学会北海道支部創立80周年を記念して、80周年記念カードの製作並びに、既存のカードの増刷を行った。

80周年記念カードはプレミアム版として、100年以上前の施設で古写真があり、土日配付可能な場所がある6件について、各1,000枚を

<道支部創立80周年記念のカードの一例>



作成した。写真の面に古写真を示し、遺産データの面には通常版の写真を背景に通常版と同じ情報を示した。

既存カードの増刷については、個別の知名度や配付場所の特性に応じて1,000枚~3,000枚の傾斜配分を行った。また、No.6の狩勝峠鉄道施設群および、No.22の狩勝信号場跡の2件は、地元からより良い写真への更新提案を受け、写真を差し替えた。

6. 現状および今後の課題追加・補充等の対応

2017(平成29)年の追加・補充以降は、2018(平成30)年に選奨された2件の製作及び配付までを進めた状況にある。

カードの製作については、特例的に地元側の費用負担で印刷した2つの事例がある。1つは函館における民間グループの活動「函館コンクリートツアー」の実施にあたり、既に配付を終えていた「函館港改良施設群」のカードを民間グループで100枚印刷し、参加者に配付したこと。もう1つは平成30年度選奨の「山線鉄橋」において、翌年以降となるカード作成に対して、地元側の早期配付の意向を汲んで、管理者の千歳市が1,000枚印刷し、その翌年に道支部からの1,000枚を補充したことである。いずれもデザイン(版)は道支部作成によるもののため、収集者に違和感を与えることはない。

カードの配付開始から6年を経て、選奨土木遺産の数も配付当初の32件から、令和2年度で46件(カード配付は平成30年度までの42件)に増加した。一方、多くの場所で配付は終了している。道支部では、今後も選奨土木遺産の数が増える中で、同じカードを今後とも製作し続けることの必要性以上に、次のステップへの移行が必要と考えている。そのため、今後の展開方法(カードの持続または終活)が課題となっている。地域や施設等で今後ともカードを必要とする場合、自前で増刷する方法は、カード配付の持続の一手法となるのかもしれない。

(2021年1月受理)

<参考> 道支部HPのリンク

- ・北海道の選奨土木遺産

<http://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/contents/heritage/index.htm>

- ・選奨土木遺産カード：80周年記念カードの確認のほか、各遺産の名称をクリックすると、詳細な解説等が確認可能

<http://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/contents/civil/index.htm>

— 学会ニュース —

「第42回土木史研究発表会」の開催について

土木史委員会（委員長：知野泰明 日本大学工学部准教授）では、第42回土木史研究発表会を2022（令和4）年6月18日（土）・19日（日）の両日、オンライン（Zoomによる発表・聴講）にて開催いたします。

1. 主 催：土木学会（担当：土木史委員会）
2. 期 日：2022（令和4）年6月18日（土）・19日（日）
3. 会 場：土木学会およびオンライン（Zoomによる発表・聴講も行うハイブリッド開催）
4. 申し込み：土木史委員会のHPをご参照のうえ、6月17日（金）までに事前の参加申込みを済ませてください（「参加URL」をお送りします）。

※詳細は、土木学会HPをご覧ください。

編集後記

『コロナ禍であり』発行が遅れておりましたと言い訳したい気持ですが……、また会えるからその時に原稿依頼をお願いしようなどと考えているうちに、2年近くが経ちました。

特に、石川さんには早い段階で原稿をいただきましたが、そのまま凍結状態となり申し訳ありません。

土木史フォーラム No. 53

監 修：土木学会 土木史委員会

発 行：土木史広報小委員会 代表者 緒方 英樹

事務局：伊納 浩

Email : inoh@kyowa-c.co.jp

土木史フォーラムHP

<http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/forum/>

CONTENTS

FORUM

Thinking about civil engineering picture books

Ogata Hideki

1

LOCAL NEWS

Selected civil engineering heritage card in Hokkaido

Ishikawa Shigeaki

4

REPORT FROM CHCE (Committee on Historical in Civil Engineering)

Call for papers of the 42th Annual Meeting of CHCE

8